

自己点検・評価報告書

点検対象：2024 年 4 月～2025 年 3 月

報告書作成月 2024 年 5 月

一般財団法人日本語教育振興協会

「日本語教育機関のための自己点検・評価チェックリト」

を参考に点検項目を作成

中央情報専門学校 日本語本科

評価基準

5：達成できている 4：概ね達成できている 3：取り組むべき課題はあるが取り組んでいる
2：できていないことが多い 1：全くできていない

1. 理念・教育目標

評価

1	理念、教育目標が社会の要請に合致していることを確認している。	5
2	理念、教育目標及び育成する人材像が、教職員及び学生に周知されている。	4

学期初めの講師会を定期開催し、「学科教育理念」「前学期の総括・反省」「新学期の目標」について非常勤講師を含めて学科全員で確認を行っている。2024年度は前年度から勤務を継続してくれている先生方も多く、Teams を使情報共有の徹底、話し合いによる認識の統一を行った。学生へは、入学後オリエンテーション時に周知しており、その後も定期的に確認し、指導を継続する必要があるため、理解確認のためのオリエンテーションテストも導入した。

2. 学校運営

評価

1	短期及び中長期の運営方針と経営目標が明確化され、教職員に周知されている。	4
2	意志決定が組織的に行われ、かつ、効率的に機能している。	4
3	予算編成が適正に行われ、執行ルールが明確である。	4
4	外部からの情報収集が効率的に行われ、かつ、共有する仕組みがある。	4
5	学生、入学志願者及び経費支弁者に対して、理解できる言語で情報提供を行っている。	5
6	授業や運営に関する学生からの相談、苦情等の担当者が特定され、適切に対処している。	5

教務と生活指導の体制を整備の強化を図った結果、学生が各担当に相談する流れができていた。業務が効率化され情報共有がしっかりできた。一時的な教員不足はあったものの、外部の情報収集に充てられる時間が増え、それに伴い、学科内や学生に対しての情報共有も早く正確になってきた。前年度同様、母国語での指導体制は整っており、経費支弁者への情報提供や定期的な報告も引き続き行っている。

3. 教育活動の計画

評価

1	理念・教育目標に合致したコース設定をしている。	5
2	教育目標達成に向けたカリキュラムを体系的に編成している。	5
3	国内、又は国際的に認知されている熟達度の枠組みを参考にしてレベル設定をしている。	4
4	教育目標に合致した教材を選定している。	5
5	教育内容及び教育方法について教員間で共通理解が得られている。	5
6	教員の能力、経験等を勘案し、適切な教員配置をしている。	5

学生のレベルに合わせたクラス設定を行い、カリキュラムを編成しており、適度な進度で進めることができている。ただ、クラス編成時に数名、そのレベルにそぐわない学生が出てしまった。

4. 教育活動の実施

評価

1	授業開始までに学生の日本語能力を試験等により判定し、適切なクラス編成を行っている。	5
2	教員に対して、担当するクラスの学生の学習目的、編成試験の結果、学習歴その他指導に必要な情報を伝達している。	5
3	授業記録簿及び出席簿を備え、正確に記録している。	5
4	理解度・到達度の確認を実施期間中に行っている。	5
5	学生の自己評価を把握している。	5

授業記録表は Teams を用いて共有し、授業担当者が毎日入力することにより、同一クラスの教員が理解度、状況などを把握することができている。学生自身が記録をつける自己評価シートも継続しており、出席率や模試の結果などを可視化し、自律的な学習を促している。また、定期的に担任が学生と個人面談を行い、教員間で情報を共有することで、学科全体で学生全員を見る体制もできている。

5. 成績判定と授業評価

評価

1	判定基準及び判定方法が明確に定められ、適切に行われている。	4
2	成績判定結果を的確に学生に伝えている。	5
3	判定基準及び判定方法の妥当性を定期的に検証している。	4
4	授業評価を定期的実施している。	5
5	評価態勢、評価方法及び評価基準が的確である。	5
6	学生による授業評価を定期的実施している。	5
7	授業評価の結果が教育内容や方法の改善、教員の教育能力向上等の取組みに反映されている。	5

ICTを使った、学生による匿名での授業評価は学期ごとに行い、主任教員から各教員に対し個別でフィードバックを行い、課題の共有、改善のための取組みを行っている。各教員が次学期へ改善できるよう勤めている。成績判定・評価基準については、統一の基準設け、的確に判断できているようにしていきたい。

6. 教育活動を担う教職員

評価

1	校長、主任教員、専任教員及び非常勤教員の職務内容及び責任と権限を明確に定めている。	5
2	教育目標達成に必要な教員の知識、能力及び資質を明示している。	5
3	教員及び職員の研修等により教育の質及び支援力強化のための取組みをしている。	4
4	教員及び職員の評価を適切に行っている。	5

全体的な教員研修を行うことこそできなかったが、日々の授業での不明点や進め方など各担任を中心に話し合い、教育の質の向上に努めた。

また、役割分担を明確にし、各自が必要な知識を身につけ、共有・引継ぎを行うことができていた。外部で得た情報も Teams や講師会で共有することができ、知識の偏りがなくなるよう努めている。

7. 教育成果

評価

1	入学から修了・卒業までの学習成果を記録、保管し、適切に管理している。	5
2	修了・卒業の判定を適切に行っている。	5
3	日本留学試験、日本語能力試験等の外部試験の結果を把握している。	5
4	卒業または修了生の進路を把握している。	5
5	卒業生および修了生の状況を把握するための取組みを行い、進学先、就職先等での状況や社会的評価を把握している。	5

WSDB を使用し、学生一人一人の情報を一括管理している。卒業後の進路やビザ更新後の在留期間等の把握についても担当を決め状況把握、共有をしている。また、卒業生の入学から卒業までの書類も入学年度別にまとめ、5 年間保管を徹底している。

卒業判定に関しては、成績や出席率、進学先等をまとめデータ化し、適切に判定できるように教務主任が資料を作成し、学科長、理事長に提出、判断を行っている。

適正校維持のため、卒業生の管理にも注力し、継続して更新・保管していきたい。

8. 学生支援

評価

1	学生支援計画を策定し、支援態勢を整備している。	5
2	生活指導責任者が特定され、その職務内容及び責任と権限を明確に定めている。	5
3	日本社会を理解し、適応するための取組みを行っている。	5
4	留学生活に関するオリエンテーションを入学直後に実施し、また、在籍者全員を対象に定期的に行っている。	5
5	住居支援を行っている。	5
6	アルバイトに関する指導及び支援を行っている。	5
7	健康、衛生面について指導する態勢を整えている。	5
8	危機管理体制を整備している。	4

学籍管理に関しては、学科全体で細かい指導を心掛けており、常に情報共有を行っている。学生との関係を大切にし、アルバイト、住居等の報告・連絡・相談がしやすい環境を整えている。生活指導担当が生活指導の時間を使い、定期的に日本のルール・文化について指導を実施。この時間も含めて日本社会で生活できる知識を身につけさせたいが、実践までなかなか定着しないため、今後も工夫を凝らしていく必要がある。

健康診断は定期的に実施をしており、通院が必要な学生のフォローも行っている。

月に一度、生活アンケートを行い、アルバイト情報の記入、通帳の確認をし、生活指導・学籍管理担当による管理を続け、共有を行っている。進学時、ビザ更新で不利になる学生が出ないように今後も管理を徹底していきたい。

学校の危機管理体制は整備されており、コロナ前に実施していた避難訓練や防災訓練などを 2024 年度から再開した。学生の危機管理の意識も高められるよう整備していきたい。

9. 進路に関する支援

評価

1	進路指導担当者を特定している。	5
2	学生の希望する進路を把握している。	5
3	進学、就職等の進路に関する最新の資料が備えられ、学生が閲覧できる状態にある。	4
4	入学時からの一貫した進路指導を行っている。	5

外部の合同説明会から、校内での説明会などの進路指導を行い、1年次より進学を意識させ、進学時の面談での希望進路の把握をしている。ここ数年は就職者を希望する学生が増え、進路が多岐にわたった。そのため、個人一人一人が動き出しを早くし、計画的に準備していくように指導した。教室内で資料の閲覧ができるように尽力し、Teamなどで担任が学生の必要な情報を提供し、共有するように努めた。進学では指定校推薦校などの情報提供も随時行っており、数名が指定校推薦を利用した。今後は増えつつある就職希望者のためにも情報を収集していく必要がある。

10. 入国・在留に関する指導及び支援

評価

1	入管事務担当者を特定し、その職務内容及び責任と権限を明確に定めている。	5
2	担当者は、研修受講等により最新かつ適切な情報取得を継続的に行っている。	5
3	入国管理局により認められた申請等取次者を配置している。	5
4	入管法上の留意点について学生への伝達、指導等を定期的に行っている。	5
5	在留に関する学生の最新情報を正確に把握している。	4
6	在留上、問題のある学生への個別指導を行っている。	5
7	不法残留者、資格外活動違反、犯罪関与者等を発生させないための取組みを継続的に行っている。	4

学生へ常に最新情報を提供するよう心掛け、ルールの大切さなどは生活指導責任者をはじめ担任からも授業内外で指導。遅刻・欠席者への連絡は漏れなく行い、2023年度からFormsでの連絡形態も確立。学生が増えたが、学生への指導の熱量は変わらず維持できている。生活指導の時間を有効に使い、不法滞在や違反の事例などを紹介しながら、学生自身が判断できるよう指導を継続している。

11. 教育環境

評価

1	教室内は、十分な照度があり、換気がなされているとともに、語学教育を行うのに必要な遮音性が確保されている。	5
2	視聴覚教材やITを利用した授業が可能な設備や教育用機器を整備している。	5
3	教員及び職員の執務に必要なスペースを確保している。	3
4	法令上必要な設備等を備えている。	5

各教室は引き続き修繕も行い、学習がしやすい環境を整えている。しかし、教務事務を行うスペースが狭く、作業が滞ることもある。執務スペースを整えていくことは今後の課題である。

12. 入学者の募集と選考

評価

1	教育内容、教育成果を含む最新、かつ、正確な学校情報、求める人物像、および応募資格と条件が入学希望者の理解できる言語で開示されている。	5
2	入学選考基準及び方法が明確化され、適切な体制で入学選考を行っている。	5
3	学生情報を正確に把握し、提出された根拠資料等により確認を行っている。不法残留者を多く発生させている国からの志願者については、学校関係者（職員等）が面接などの調査を行うよう努めている。	5
4	入学検定料、入学金、授業料、その他の納付金の金額及び納付時期、並びに学費以外に入学後必要になる費用が明示されている。	5

担当者が現地へ行き、必要であれば両親やエージェントとの三者面談等を実施。一度だけの日本語力チェックで終わらせず、定期的に面談を行い、勉強が継続して行えているかも確認。オンラインをうまく使いながら、学生一人一人の状況を入学前から把握・指導ができています。また、現地で取得した日本語資格の一つ上のレベルを取得できるように、入学前からJLPTに申し込み、継続したレベルの向上に努めている。学生に対する情報提示も問題なく行えているが、新聞奨学生が増え、イレギュラーな対応については、今後も注意が必要となる。募集には一部教員も参加しているため入学後に面識があり、学生に安心感を与える効果も実感している。SNSなど新たな情報発信方法に力を入れていきたい。

13. 財務

評価

1	財務状況は、中長期的に安定している。	5
2	適正な会計監査が実施されている。	4

事務局により行い、必要な情報は教務よりスムーズに提供ができています。

14. 法令遵守

評価

1	法令遵守に関する担当者を特定している。	5
2	入国管理局、関係官庁、日振協等への届出、報告を遅滞なく行っている。	4

担当者が明確になっており、連絡体系も整備されていることから報告は適切な時期に行っている。2023年度に一部報告が漏れていたものが発覚したため、引き続き現在対応中。今年度以降は遅滞なく報告を行っていききたい。

15. 地域貢献・社会貢献

評価

1	日本語教育機関の資源・施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っている。	3
---	------------------------------------	---

学生数が一気に増え教師が不足していたため、地域貢献活動への参加や開催がほぼできなかった。今年度からは、学校周辺清掃をはじめ、過去に行っていた活動を復活させ、情勢に合った新たな活動についても検討していきたい。地域貢献を学校全体で行い、周辺地域との連携を図っていききたい。